

## 時事の話題

### ■経済動向について

6月を目途に取りまとめられるアベノミクスの3つ目の矢「民間投資を喚起する成長戦略」が、今後の日本、特に産業界、地域経済にとって重要なものである。経済再生を成し遂げるのは中小企業と地域の活力であり、そのために中小施策をこれまでの守りの施策から成長をより重視した攻めへの政策の転換を図るべきである。一方、商工会議所の役割はまちづくりや観光振興など地域ビジョンの策定とその共有化に取り組むことによって、地域の成長に向けた施策提言を行うことである。

急激に進んだ円安は、自動車や電機など大手の輸出関連企業から歓迎の声が上がっている。1ドル90円から100円の間で推移すると輸出企業の収益が本格的に改善し、恩恵が広く内需に及び好循環が期待できる。本所は1～3月の景気経済動向調査（BSI調査）に併せて、円高解消による企業経営への影響を調査している。内容は取りまとめ中だが、資料の通り速報値を報告する。メリットの面では、一般機械や電気機械、精密機械関連の製造業を中心に、直接・間接の輸出増による売り上げや収益の好転、為替差益への期待、観光関連のサービス業では、外国人観光客増と景気回復による国内需要増を期待する声が聞かれる。デメリットの面では、繊維関連の業種や運輸・倉庫業、出版・印刷、食料品関係などの幅広い業種から、原材料や部品、燃料の価格高騰を懸念する声が多く聞かれ、特にBtoCを中心とした業種にコスト上昇による価格転嫁に不安があるようだ。為替変動には常にプラス・マイナスの両面があり、一概に円高・円安のメリット・デメリットを語る事が難しいことを裏付ける結果となった。

企業が将来の成長に向けて、積極的な設備投資や事業構造の転換に取り組み、腰を据えた事業活動に専念できるよう、金融政策面での環境整備も必要だ。黒田新総裁をはじめとした日銀の新体制はデフレ脱却に向け、安倍政権と緊密に歩調を合わせることを明らかにされており期待している。政府・日銀には、引き続き為替の安定につながる金融政策の実行をお願いしたい。

## 京都商工会議所の動き

### ■上海市工商业連合会の訪日および関西6商工会議所によるファムトリップについて

本所と経済交流協定を締結した上海市工商业連合会のミッション団が3月26日から5日間の日程で、京都・大阪を訪問されるのに合わせて、京都府ならびに京都産業21と連携し、懇談会や企業視察などを実施する。京都・上海の双方の企業にとって、ビジネスチャンスとなることを期待している。また、関西6商工会議所が連携して取り組む、中国からの旅行業者やマスコミ等の招聘事業（ファムトリップ）は、関西の観光モデルルートを富裕層やインセンティブツアー実施のキーマンである現地企業のトップとメディアなどにPRする。関西6商工会議所と相談しながら秋頃に実施したい。こうした、民間レベルの交流を通じて、中国からの質の高いビジネス機会の創出、インバウンド観光の推進につなげたい。

### ■本所理事の選任について

ニュー京商ビジョン・セカンドステージの最終年度を迎える来年度は、各事業の総仕上げの年として、知恵ビジネス産業群の誘発事業や、組織基盤強化に向けた会員増強運動など、着実に事業を推進していきたい。そこで、事務局の機能をより高めていくため、4月1日付けで、現在の稲垣繁博産業振興部長に、専務理事、常務理事を補佐する、理事に就任してもらう。これまで培ってきた経験、豊富な人脈などを存分に活かし、関係団体との連携・ネットワークの構築に向け、若さと、情熱をもって取り組んでくれることを期待している。

## **記者からの質問事項**

### **■上海市工商業連合会ミッション団の訪日の目的は何か。**

基本的に経済交流を主体にした内容を考えているが、このようなミッション団を受け入れることが最終的に観光プロモーションにつながると考えている。

### **■上海市工商業連合会の訪日について、環境問題をテーマとする予定はあるか。**

今回は RITE（地球環境産業技術研究機構）を訪問される。先端的な環境技術の視察を通じて、中国企業の今後の事業展開や、日中の経済交流促進へのきっかけになると考えている。

### **■先日発表された TPP 交渉参加表明に対するコメントでは「日本の農業を守ることよりも成長産業化に向けて取り組むべきである」と表現されたが、どういう思いがあるのか。**

農業の聖域にあまりにこだわりすぎると、交渉そのものが締結にまで至らない危険性がある。TPPに参加する、しないとは別に、農業を成長産業として育成していくことが大事である。我々産業界として、TPP 協定締結によるメリットを大きく享受することが、国の富につながってほしい。

### **■円安の影響について、1 ドル 90 円台後半から 100 円台になってくるとデメリットも出てくるだろうが、どのようにお考えか。**

円高のメリット・デメリットは業種・業界によって異なり、一概に答えられない。原発再稼働の議論では、原発に代わる電力源を輸入に頼っていることが、電気料金の値上げ要因になっている。また、輸入素材、商品を扱う企業の収益性低下も危惧している。あまり行き過ぎた円安は問題であり、1 ドル 90 円～100 円で安定的に推移してくればよい。

### **■企業向けの電気料金値上げについての情報が少ないと思われるが、説明は納得できるものなのか。**

家庭向けあるいは企業向けの電気料金にしても、適正価格についての精査が行われている段階であり、その精査がまとまらない限り、企業への説明は後にずれる気がしている。

### **■京都は多くの電力を使用する企業も多いが、会員企業への電気料金値上げの影響について、どのように対処されようとしているのか。**

影響についての想定や予測はまだできていない。

京都商工会議所 経営経済動向調査（平成25年1～3月期）  
付帯調査「円高解消による企業経営への影響」（速報値）

京都商工会議所では、4半期ごとに実施する「経営経済動向調査（BSI調査）」の平成25年1～3月期の調査に付帯し、円高解消による企業経営への影響について京都企業を対象に調査を実施し、3月19日時点の結果を以下の通り取りまとめた。

※平成25年1～3月期の「経営経済動向調査」は、後日記者発表いたします

## 1. 調査概要

調査時期：平成25年2月19日～3月1日

調査内容：円高解消による企業経営への影響

調査対象：京都府内に本社・本店を有する企業590社

回答企業数：420社（回答率71.2%）

調査方法：郵送によるアンケート方式

基準レート：1ドル92.85円（調査期間2月19日～3月1日終値の平均レート）

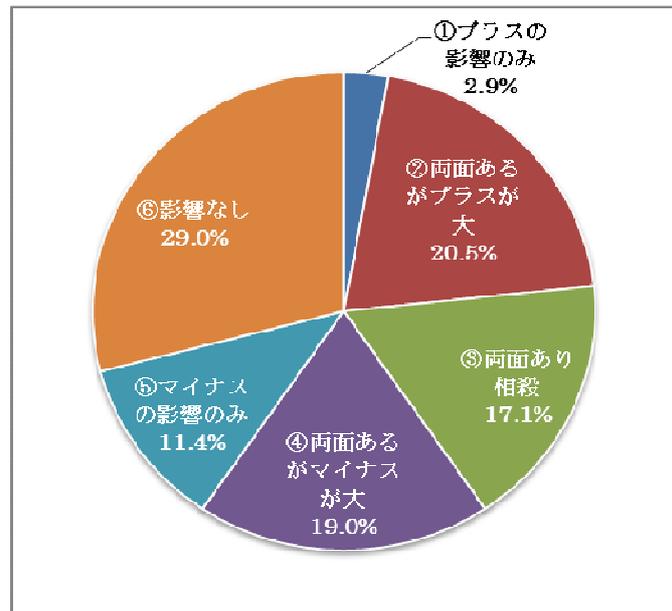
※期間中最高値：1ドル90.92円（2月25日）

最安値：1ドル94.76円（2月25日）

## 2. 調査結果の概要

### 【質問】円高解消による貴社への影響について

①プラスの影響のみ	12	2.9%
②両面あるがプラスが大きい	87	20.5%
③両面あり相殺	72	17.1%
④両面あるがマイナスが大きい	80	19.0%
⑤マイナスの影響のみ	47	11.4%
⑥影響なし	122	29.0%
合計	420件	-



- ・円高の解消によって企業経営に与える影響は、「プラスの影響のみ」「プラスが大きい」と回答する企業は23.4%、「マイナスの影響のみ」「マイナスが大きい」と回答する企業は30.4%となり、マイナス影響を懸念する企業数の方がやや多い。また、「影響なし」と答える企業は29.0%となり、一定数以上を占めている。為替変動が企業経営に与える影響には、プラスとマイナスの両面があることが鮮明である。
- ・業種ごとに詳しく見ると、機械関連の3業種（「一般機械製造」「電気機械製造」「精密機械製造」）や「旅館・ホテル」、「非鉄」でプラスの影響が多くみられる。一方、繊維関係（「繊維製造」「染色」「繊維製品製造」「繊維卸」）や「運輸・倉庫業」、「出版印刷、食料品関係（「食料品卸」「食料品製造」）では、マイナスの影響が多くみられる。また、「その他サービス」「情報・事業サービス」は、「影響がない」と答える企業が多くみられる。

## 【コメント】具体的な影響について（抜粋）

### ①プラスの影響のみ

- ・ 3月決算では大幅な為替差益の見込み。来期は1年以上ぶりに輸出の受注も期待（鉄鋼）
- ・ 取引先に輸出メーカーが多いため、円安による業績アップから受注増を予想（非鉄）
- ・ 国内大手親企業からの受注増への期待（精密機械製造）
- ・ 外国人客の増加、景気の上昇による国内需要の増加（旅館・ホテル）

### ②両面あるがプラスが大きい

- ・ 現時点では急激な円安により海外輸出分でプラス、今後原材料価格が心配（化学・ゴム）
- ・ 輸出製品の販売価格上昇による利益率の改善（一般機械製造）
- ・ 海外の原材料の調達コストは上昇するが、海外での売上増の影響の方が大（電気機械製造）
- ・ 景気回復により民間設備投資の持ち直しがあれば、受注機会が増える（電気機械製造）
- ・ 主にドル・ユーロ建売上の利益率の上昇（精密機械製造）
- ・ 輸入品が値上がりして、多少は内地材が売れる（木材・木製品製造）
- ・ 海外競合品価格上昇により、国内商品売り上げ増加を期待（機械金属卸）
- ・ 顧客の業績がよくなれば設備投資される（建設業）

### ③両面あり相殺

- ・ 原材料は値上がりの影響が少しずつあり。受注量は輸出関連の顧客の受注増を見込む（出版・印刷）
- ・ 輸入商品の為替リスク、円安による自動車・建設関連の取引先が活況になる予想（機械金属卸）
- ・ 海外からの送客増による収入増、水光熱費の高騰による経費増（旅館・ホテル）

### ④両面あるがマイナスが大きい

- ・ 製品の輸出をしている一方、原材料を輸入しているため（食料品製造）
- ・ 原材料（生糸相場）の高騰、その他材料、間接材料の値上がり（繊維製造）
- ・ 輸入商品が高くなり販売価格に乘せられない（染色）
- ・ 材料調達コストの増加を現時点で価格に転嫁できる状況にない（化学・ゴム）
- ・ 電気料金の値上げ（窯業・土石）
- ・ 円安により顧客の売上が増加するが、当社は原料が値上がりしマイナスが大きい（非鉄）
- ・ 輸入原材料の価格の動向に注視し、前倒し生産も考える必要が出てきた（出版・印刷）
- ・ 輸入製品の価格転嫁（単価改訂）が進んでいないため利益を圧迫（機械金属卸）
- ・ 原材料費の高騰があっても、価格据え置きのため、利益率が下がる（料理・飲食）

### ⑤マイナスの影響のみ

- ・ 原油・砂糖・パルプ等が上昇（食料品製造）
- ・ 原材料仕入れ単価の上昇（生糸、金銀糸ほか）（繊維製造）
- ・ 輸出取引は無いので、材料の高騰のみ影響が生じる（化学・ゴム）
- ・ 輸入コスト増（繊維卸）
- ・ 輸入品の原価アップになるが、販売価格の値上げが現状困難（機械金属卸）
- ・ 輸入商品の仕入れは為替予約でヘッジできるが、原材料や運賃、保管料がアップ（小売業）
- ・ 円安により燃料費（ガソリン、LPガス）が高騰し、コスト増大（運輸・倉庫業）

以上

#### ◇ 本件に関するお問合せ ◇

京都商工会議所 企画総務部 政策調整担当（担当 梅影）

TEL：075-212-6402 FAX：075-255-1985

## 上海市工商業連合会訪日ミッション団について

上海市最大の商工業団体である上海市工商業連合会が下記の通り京都にミッション団を派遣。今回で京都への訪問は3回目、昨年6月の本所と経済交流協定締結後初めての入洛となる。京都府ならびに（公財）京都産業21と本所の3者で連携し本ミッション団の受入れを行う。

日 程：平成25年3月26日（火）～30日（土）

参加者：上海市工商業連合会 24名（詳細裏面名簿の通り）  
京都府上海ビジネスサポートセンター 2名

行 程：

- 1日目 3月26日（火）  
AM 上海 → 京都  
16：30 京都商工会議所と懇談会  
18：30 歓迎交流会 <京都ブライトンホテル>  
京都府・京都商工会議所・（公財）京都産業21・京都企業との交流会
- 2日目 3月27日（水）  
9：00 京都府より企業誘致に関する説明  
9：30 京都府表敬訪問  
10：30 オムロン(株)視察  
12：00 昼食  
14：00 研究機関等視察 <けいはんなプラザ>  
15：00 R I T E（地球環境産業技術研究機構）視察  
17：00 自由行動 京都駅周辺  
19：30 夕食（歌舞伎観賞＋和食）
- 3日目 3月28日（木）  
9：00 生田産機工業(株)視察  
10：30 月桂冠 大倉記念館見学  
12：00 昼食  
13：30 清水寺見学  
15：00 京都亀岡湯の花温泉ホテルへ移動
- 4日目 3月29日（金）  
AM 嵐山見学  
PM 移動 → 大阪
- 5日目 3月30日（土）  
AM 大阪見学  
夕刻 大阪 → 上海

以 上

※各行程をご取材いただける場合は、視察先等との調整が必要なため、  
下記までご連絡をお願いいたします。  
【本件ご連絡先】 京都商工会議所 産業振興部 金村（TEL：075-212-6442）

## 関西6商工会議所広域観光推進「ファミトリップ」 事業概要について

昨年6月に実施した関西6商工会議所広域観光トッププロモーションでは、それぞれの会頭が直接、関西の観光について紹介した。今回は、その訪問先である上海市と広州市の工商業联合会トップとマスコミ記者を両都市から招き、モデルルートを経験してもらうとともに、富裕者層やインセンティブツアー実施のキーマンである現地企業トップの方々にPRしてもらうため、ファミトリップを実施する。

### 1. 内 容

- ①産業観光…中国人の関心が高い関西企業の視察
- ②関西経済人からのプレゼンテーション
- ③食文化紹介…各地の代表的な食を経験してもらう
- ④その他、魅力ある観光地の視察や文化体験 など

### 2. 招請先

- ①広東省工商業連合会 正副会長等の幹部2名程度  
広州市のメディア記者2名程度
- ②上海市工商業連合会 正副会長等の幹部2名程度  
上海市のメディア記者2名程度

### 3. 実施予定

平成25年秋頃 (3泊4日、2コースに分かれて実施)

以 上

※実施の時期および内容は現地工商聯の希望を取り入れ調整のうえ決定する。

## 本所理事の選任について

## 【 稲 垣 繁 博 (いながき しげひろ) 】

◇生年月日／昭和36年8月15日生（51歳）  
◇略 歴／昭和59年 4月 京都商工会議所 入所  
平成16年 4月 京都商工会議所 プロジェクト推進室担当課長  
兼小倉百人一首事業運営準備室室長代理  
平成17年 4月 同 プロジェクト推進室次長  
財団法人小倉百人一首文化財団出向  
平成18年 4月 同 総務部次長 兼 事業推進担当課長  
平成20年 4月 同 産業振興部 副部長  
平成22年 4月 同 産業振興部 部長心得  
平成22年12月 同 産業振興部 部長

※任期：平成25年4月1日～（3年間）

<参考 ～本所定款抜粋～ >

第31条 本商工会議所に、次の役員を置く。

会頭1人 副会頭4人 専務理事1人 常議員50人 監事3人

2 前項の役員の外、必要に応じ、理事4人以内（うち1人を常務理事とすることができる。）を置くことができる。

第32条

5 理事は、専務理事を補佐して所務を処理する。

第33条

5 理事は、常議員会の同意を得て、会頭が選任し、又は解任する。

第34条

役員の任期は、3年とする。

2 役員は再任されることができる。

以 上